自分の考えを持ち、考えを深めることができる児童の育成

－説明的な文章における文章構造からの内容把握と考えの交流を通して－

角田市立横倉小学校　小松　美穂

１　主題設定の理由

本校の第６学年児童は、これまで、説明的な文章における学習で、文章を序論－本論－結論に分けて要旨を書くこと、また、関連する２つの文章を読み友達と話し合う活動を通して、自分の考えを文章にまとめることを学習している。しかし、授業では、学習した事項を生かして自分の考えを持つことや自分の考えを友達に伝えることに苦手意識を持っている様子が見られた。意識調査の結果（４月実施）からは、ほとんどの児童が、教師や友達の話を聞くことは好きだと回答している反面、発表すること、文章を読むことに苦手意識を持っていることが分かった。特に、約半数の児童が、文章の構成を分けたり、筆者の主張を捉えたりすることに苦手意識を持っていることも分かった。この結果から、文章を正確に読むことを苦手としているために、自分の考えに自信を持って説明することができないのではないかと考える。

以上の実態を踏まえ、文章を正確に読み、内容を把握することで自分の考えを持たせ、交流により自分の考えを深めることができるようにさせたいと考え、本研究主題を設定した。

２　研究の内容と方法

(1) 研究の目的

本研究の目的は、国語科「読むこと」の説明的な文章において、文章構造からの内容把握により、自分の考えを持つこと、友達と交流することでその考えを深めることができる児童の育成を目指すことである。「自分の考えを深める」とは、交流を通して得た気付きを基に、自分の考えを再確認している姿である。本研究では、研究主題に迫るために以下の手立てを講じる。

(2) 研究の方法

①　文章を正確に読むための文章構成の確認

ア　文章構成と筆者の考えを捉える

始めに、序論－本論－結論に分けさせる。次に、接続語、指示語、文章表現に着目させ、筆者の考えを理解するために文章を構造的に捉えるシート（以下、文章構成シートとする）にまとめさせる。

イ　論の進め方を捉える

筆者の考えを読み手に伝えるために行っている、説明の仕方の工夫を捉えさせる。問いと答え、事例を挙げて説明したり、文章と図表を結び付けながら説明したりしていることを確かめさせ、筆者が論の進め方を工夫して説得力のある文章にしていることを捉えさせる。

②　自分の考えを深めるための交流の工夫

ア　自分の考えをまとめ、友達と交流する

筆者の説明の仕方の工夫や論の進め方について気付いたことを、ペアや少人数、全体と形態を変えて交流させる。全体で交流するときには、それぞれの考えを直接話したり、Google Jamboard （以下、Jamboard とする)を使ったりして交流させる。

イ　自分の考えを見直す

友達と交流させた後、自分の考えを再度見直す活動を設定する。自分の考えと友達の考えを交流させ、新たに気付いたことや自分の考えを見直したことを振り返る時間を設け、自分の考えの深まりを感じさせる。

３　授業実践Ｉの取組

単元名「筆者の論の進め方を確かめよう」

（教材：「イースター島にはなぜ森林がないのか」東京書籍　新しい国語六）

本単元は、小学校学習指導要領解説国語編の第５学年及び第６学年の内容〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ(1)ウを重点指導事項とし、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる」を目標に設定した。言語活動は、「筆者の論の進め方について分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする」とした。

(1) 手立てについて

①　文章を正確に読むための文章構成の確認

ア　文章構成と筆者の考えを捉える

始めに、文章構成を整理させるために、文章構成シートを使用し、序論－本論－結論に分けさせた。次に、接続語、指示語、文章表現に着目させて、筆者が伝えたいことについて読み取らせ、分かったことを文章構成シートに記入させた。文章構成シートは、文章全体の構成と筆者の考えを捉えるために使用させた。

イ　論の進め方を捉える

文章構成シートを活用し、文章の構造や論の進め方に目を向けさせ、イースター島から森林が失われた原因が２つあること、更に事例を挙げて書かれて

いることなどに着目させた。文章構成シートの上段部分には、文章の構成や内容、筆者の考えについて読み取ったことを全員が同じ文言で記入することによって、児童の内容理解や捉え方に差が出ないようにした(図１)。下段には、論の進め方について分かったことや気付いたことを、個別に箇条書きさせた。その後、筆者の説明の仕方の工夫について、自分の考えをまとめさせた(図２)。

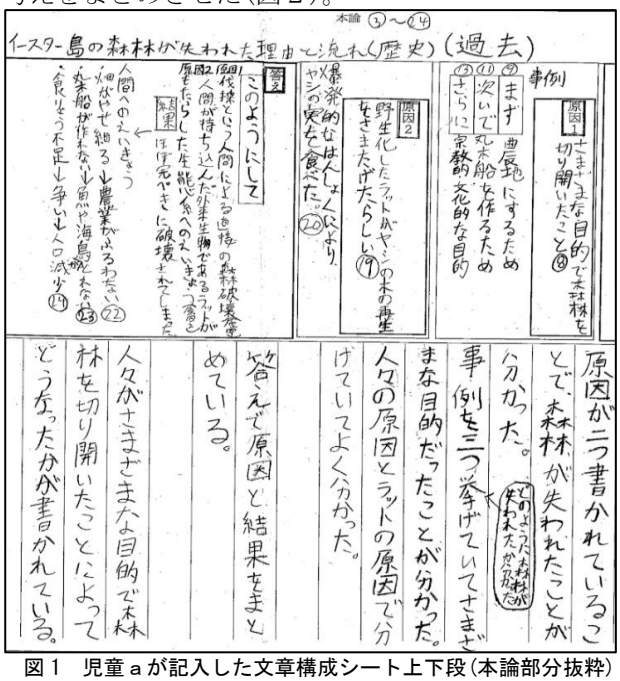

図１　児童ａが記入した文章構成シート上下段(本論部分抜粋)

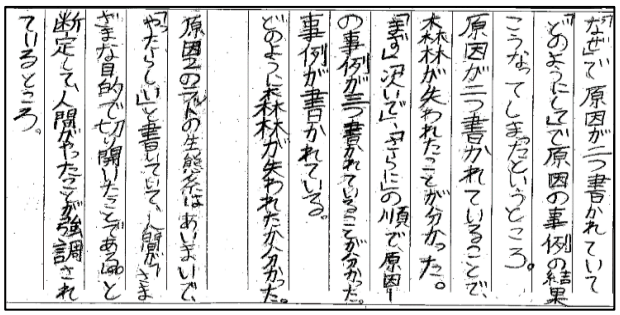

図２　児童ｂが記入した文章構成シート下段(本論部分抜粋)

②　自分の考えを深めるための交流の工夫

ア　自分の考えをまとめ、友達と交流する

自分の考えを交流するときに文章構成シートを手掛かりにして、どのような論の進め方の工夫がされているのかを説明させた。まず、叙述を確認しながらその根拠を少人数で説明させた。次に、新たな気付きを得ることができるように論の進め方について全体で交流させた。

イ　自分の考えを見直す

全体で交流した後に、教科書の叙述や文章構成シートの記述に立ち返り、論の進め方についての自分の考えを、再度見直させた。

(2) 授業実践Ⅰの成果と課題

①　文章を正確に読むための文章構成の確認

成果としては、文章構成シートにより、文章構成や内容について、繰り返し確認することができたことが挙げられる。文章構成シートを手掛かりに読んだり考えたりする児童の様子が見られ、文章構成シートに同じ文言で記入させたことも説明の仕方の工夫を把握することにつながっていたと思われる。

課題としては、文章構成シートに記入する時間が掛かったこと、文章構成シートだけを見て論の進め方の工夫を見付けようとしていた児童がいたことが挙げられる。文章構成シートに記入させる文言の吟味と、教科書の叙述に立ち返って考えさせる声掛けが不十分であった。

②　自分の考えを深めるための交流の工夫

成果としては、文章構成シートの下段に自分の考えを箇条書きさせることによって、説明する内容が整理でき、友達の考えと比較しながら聞いたり自分の考えを見直したりできた児童がいたことが挙げられる。また、交流後、自分の考えを文章にまとめる際に Jamboard を使用することで、友達の考えを参考にしたり、互いの考えを読み合ったりすることができたことも成果である。

課題としては、自分の考えを出し合うだけの交流に留まり、交流した内容を深めることができなかったことが挙げられる。児童の考えを深める問い返しを工夫する必要があった。

４　授業実践Ⅱの取組

単元名「町の未来の姿を考えよう」

（教材：「町の幸福論―コミュニティデザインを考える」東京書籍　新しい国語六）

本単元は、小学校学習指導要領解説国語編の第５学年及び第６学年の内容〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ(1)ウを重点指導事項とし、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる」を目標に設定した。言語活動は、「自分たちの住む町の未来について考えたことを基に、必要な情報を見付け、まとめたことを報告する」とした。

(1) 手立てについて

①　文章を正確に読むための文章構成の確認

ア　文章構成と筆者の考えを捉える

始めに、児童に序論－本論－結論に分けさせた。次に、接続語、指示語、文章表現に着目させ、筆者の考えを文章構成シートにまとめさせた。授業実践Ⅱにおいても文章構成を整理させるために文章構成シートを使用したが、記入させる文言については統一せず、授業実践Ⅰまでの学習を生かして、個別に考えさせて記入させた。

イ　論の進め方を捉える

筆者が読み手に伝えるために、問いと答え、事例を挙げて説明したり、文章と図表などを結び付けて説明したりしていることを捉えさせた。効果的な資料の活用について捉えさせるために、土祭の様子が伝わりにくい写真を意図的に見せ、掲載されている

写真と比較させた。必要に応じて、論の進め方について気付いたことを文章構成シートに記入させ、自分の考えをまとめるときに活用できるようにした（図３）。

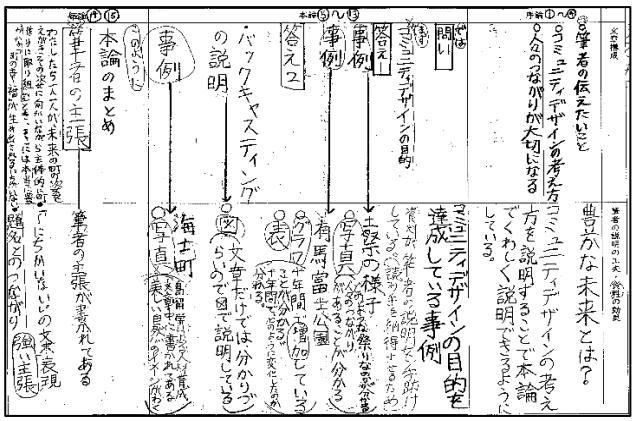

図３　児童ｃが記入した文章構成シート

②　自分の考えを深めるための交流の工夫

ア　自分の考えをまとめ、友達と交流する

筆者の説明の仕方の工夫や論の進め方について自分の考えをノートや Jamboard にまとめ、友達と交流させた。自分たちの住む町の良さや課題について考えるときには、キーワードだけを Jamboard に入力することで町の良さや課題を焦点化し、考えを分かりやすく説明したり集中して聞いたりできるように準備させた（図４）。

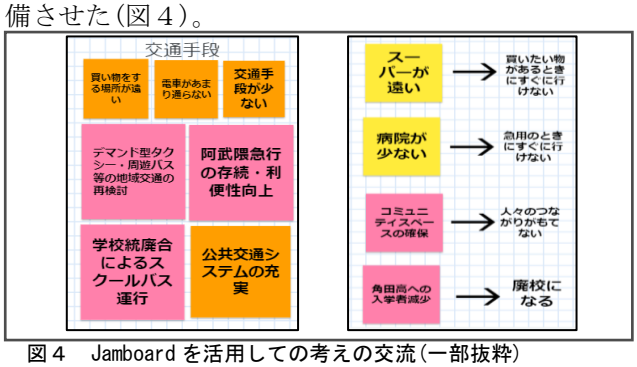

図４　Jamboard を活用しての考えの交流（一部抜粋）

事例や資料を使って自分の考えを説明し、交流するときには、自分たちの住む町の未来についての考えを報告する文章に効果的な資料を選ぶことができているか、効果的な資料の活用がされているか、論の進め方を工夫して自分の考えを分かりやすく説明することができているかという観点を示し、グループで交流をさせた。また、自分の考えと比べながら聞くようにさせ、交流で得た新しい気付きをノートや文章構成シートに記入させた。

イ　自分の考えを見直す

友達と交流した後、自分の考えを再度見直す活動を行わせた。自分の考えを見直したり、教科書の叙述に立ち返って根拠を確認したりするなど、学んだことを生かしながら自分の考えを深めさせた。また、単元の最後に、自分の考えの変容について振り返らせ、自分の考えの深まりを実感できるようにした。

(2)　授業実践Ⅱの成果と課題

①　文章を正確に読むための文章構成の確認

成果としては、文章構成シートを個別でまとめられる児童が増え、文章の構造を把握したり、筆者の主張を捉えたりすることができるようになってきたことが挙げられる。

課題としては、文章構成について整理することに時間を要したことが挙げられる。文章構成について整理し、正しく読むためには文章構成シートの活用は有効であるが、整理する時間の確保は難しかった。

②　自分の考えを深めるための交流の工夫

成果としては、教科書の叙述から根拠を示したり、キーワードなどで自分の考えを整理したりして説明する児童が増え、積極的に交流できたことが挙げられる。Jamboard を活用した交流では、キーワードが示されていることで互いの考えを捉えやすく、ポイントを押さえて聞くことができていた。また、短時間で多くの考えを交流できたことで、自分の考えをじっくり見直すことができた。

課題としては、資料の効果を捉える際に写真の効果を中心に全体交流させたため、グラフや表の資料の効果を活用して説明する児童が少なかったことが挙げられる。目的に応じて様々な資料を活用できるようにすることが不十分だった。

５　研究の検証と考察

(1)　意識調査の結果から

①　文章を正確に読むための文章構成の確認

実践前の６月、授業実践Ⅰ実施後の７月、授業実践Ⅱ実施後の 11 月の意識調査の結果を比較すると、「文章を読み、序論－本論－結論に分けることができる」という質問１に対して「できた」「どちらかといえばできた」と肯定的に回答した児童は実践後に増え、最終的に 15 人から 20 人に増えた（図５）。また、「文章を読み、筆者の主張を理解することができる」という質問２に対して「できた」「どちらかといえばできた」と肯定的に回答した児童も 17 人から 21 人に増えた（図６）。さらに、「文章構成シートを使うことで、文章の構成や筆者の考えを捉え、論の進め方を確かめることができたか」という質問３では「できた」「どちらかといえばできた」と肯定的に回答した児童が、授業実践Ⅰ実施後は 21 人、授業実践Ⅱ実施後には 25 人に増えた（図７）。児童の自由記述からは、「文章構成シートを使うことで、序論－本論－結論の筆者の説明の工夫、資料の効果をまとめたものを見て、筆者の論の進め方を確かめることができた」などの回答があった。文章構成シートを使用して、文章全体の構成を押さえたり、目的に応じて文章と図表などを結び付け、必要な情報を整理させたりしたことで内容を把握し、自分の考えを持つことにつながったと考えられる。

図５　意識調査の結果

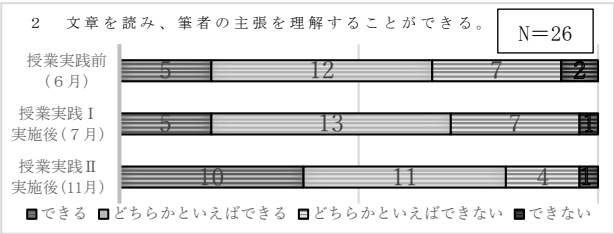

図６　意識調査の結果

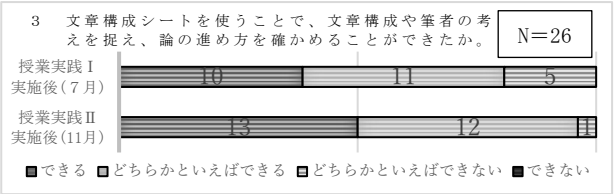

図７　意識調査の結果

②　自分の考えを深めるための交流の工夫

実践前の６月、授業実践Ⅰ実施後の７月、授業実践Ⅱ実施後の 11 月の意識調査の結果を比較すると、「友達の考えを聞いて、自分の考えと比べて聞くことができる」という質問４に対して「できた」「どちらかといえばできた」と肯定的に回答した児童は、最終的に 24 人から 22 人に減少した(図８)。授業実践Ⅱ実施後に「どちらかといえばできない」と回答した４名の児童のノートの記述を確認したところ、交流する前に自分の考えを記入することができなかった様子が見られた。交流する場面で、自分の考えを持った状態で交流ができなかったため、否定的に回答していた。しかし、交流した後には４名の児童全員が自分の考えを書くことができていた。振り返りの記述を見ると、交流をすることで、新しい気付きを得ていたことが分かった。

この結果から、自分の考えを持つことができなかった児童においても、形態を変えながら繰り返し交流させたことや交流の目的や観点を示して交流させたことで、自分の考えを持ったり、自分の考えを見直したりさせることへとつながったと考えられる。

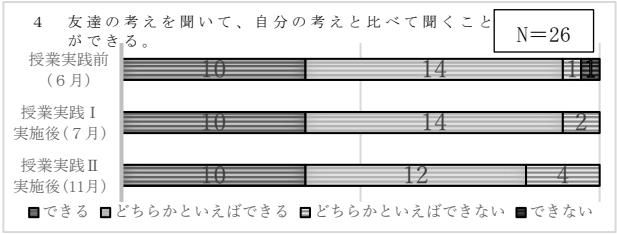

図８　意識調査の結果

(2) 児童の学習の様子から

授業実践Ⅰ及び授業実践Ⅱの児童の様子を比較すると、文章構成シートを手掛かりに、文章構造と内容把握をしたことで、自力で文章構成を捉えられるようになり、自分の考えを持つことへとつながった。文章構成を捉える授業では、捉えた筆者の説明の仕方の工夫や論の進め方を参考に、自分の考えをまとめたり、進んで発表したりする姿が見られた。しかし、文章構成をまとめるために掛かる時間や捉えた内容には個人差が見られるので、個別指導や全体で文章構成を確かめる手立ての工夫が必要である。

交流では、友達と考えの交流をすることで自分の考えに自信が持てたり良い考えが見付かったりすることを知り、積極的に友達と関わるようになった。児童自身が交流の意義を理解し、自分の学習に生かすことができるようになったためと考える。

６　研究のまとめ

(1) 研究の成果

意識調査の結果や児童の学習の様子から、自分の考えを持ち、考えを深めることができる児童の育成をする上で、説明的な文章における文章構造からの内容把握と考えの交流は、有効であったと考える。

文章構成を捉えたり筆者の主張を捉えたりするなどの内容把握を苦手としていた児童に対して、文章構成シートを使用して文章構成を確認することで、論の進め方や筆者の主張を捉えるための文章構造に目を向ける読み方に変わることが分かった。また、文章構造や論の進め方や筆者の主張を文章構成シートや教科書本文により繰り返し確認することで児童の考えが整理され、課題に対する自分の考えを持つことにつながることも分かった。

さらに、観点を絞って考えの交流を行ったり、自分の考えを見直したりすることで、自分の考えを深めたり考えが深まったことを実感させたりできることが分かった。また、文章を読んで理解したことについて自分の考えを持ち、説明できる児童の姿が見られた。交流を積み重ねることで、児童が交流することの意義を見いだし、主体的に交流するようになったことも成果である。

(2) 今後の取組

本研究について、今後、実践する際には、発達段階や児童の実態に応じて文章構成を確かめる手立てや自分の考えの持たせ方について更に工夫していきたい。また、児童が自分の考えを深めることができる交流のさせ方について授業力を高め、研究を深めていきたい。

【図表等の承諾について】

図１、２、４の文章構成シートの一部、図３の Jamboard の一部は、授業実践で児童が記入したものである。また図５、６、７、８は、児童の意識調査の結果である。授業後研究の目的のみ使用することとし、児童の保護者及び所属校の校長から使用許諾を得た。